



国際リニアコライダー（I-LC）実現に向けて

岩手県I-LC推進協議会 会長 谷村 邦久
(盛岡商工会議所会頭、岩手県商工会議所連合会会長)

東北、岩手が誘致運動を進めている超大型加速器・国際リニアコライダー（I-LC）建設について、昨年、日本の研究者組織・I-LC立地評価会議は、北上山地を国内候補地と決定しました。

今後は、政府の正式な誘致表明や国際交渉など、乗り越えなければならない様々なハードルが待ち構えています。

そこで、復興のシンボルでもある国内初の国際研究施設I-LCの誘致実現に向け、今後の期待や課題など、各方面で奔走・活躍されている方々から、シリーズで寄稿いただきます。

国内候補地一本化

2013年8月23日、I-LC立地評価会議において、本県の北上サイトが技術的観点および社会環境基盤の観点から、全会一致で国内候補地として最適と評価されました。北上山地の強い岩盤と東北が持つ高いポテンシャルに加え、産学官民の関係者の熱意、県民の意識の高まりなど総合的な評価の結果であり、岩手県始まって以来の最大のプロジェクトが大きな一歩を踏み出したと言えます。I-LCの誘致活動から建設実現へと新たなステージに立ったものと考えております。

今後は、国として一日も早い日本誘致の方針を決定し、オールジャパンで世界から建設への

合意をとりつけていかなければなりません。また、受入れ体制の整備や建設にかかる設計等への協力、さらには県民の理解を一層盛り上げていくことなど、当協議会としてもこれまで以上に、一つ一つの課題に真摯に取り組んで参らなければならぬと考えております。

I-LC誘致の意義

東日本大震災津波は岩手県に未曾有の被害をもたらしました。本県をはじめ東北はいま、全国そして世界各国から多くの支援を受けながら、復旧・復興に向けて、地域一丸となって懸命に取り組んでいるところです。しかしながら、新しい岩手・東北の再生には、まだまだ時間の

かかる状況となっていることも事実でありま
す。今後、東北が真の復興を果たしていくため
には、長期間にわたって人々が心をひとつにし、
夢を持って取り組んでいく象徴的なプロジェク
トが必要です。I L Cが建設されると、世界最
先端の研究を行う多くの人材が世界から集ま
り、精密実験を支える先端技術も集積し、最先
端の研究成果が世界に発信される「国際科学研
究都市」が形成されます。このことは、岩手・
東北の子供達の未来に「夢」と「希望」を与え
ることにつながります。I L Cを東北に建設す
る最大の意義は、「大震災からの復興と再生の
原動力となり、子どもたちに夢と希望を与える
国家プロジェクト」であると思っています。

I L Cと岩手

北上山地は、古生代・中世代に形成され、今
まで1億年にわたり静かに眠っていたもので、
花崗岩が広く分布し、安定した地盤地帯で、活
断層が存在しないものと推定されており、まさ
に宇宙を究明するI L Cのために残されていた
と思います。

また、北上山地のふもとには世界遺産に認定

された「平泉の文化遺産」があり、奥州藤原氏
が争いのない理想郷を目指し、浄土思想に基づ
き、仏国土（浄土）を現生に再現したものです。
さらに岩手の先人です。地球物理学や航空学
など幅広い分野に業績を残し、日本の物理学の
草分けとなった田中館愛橋博士。



2012年4月の岩手県 I L C 推進協議会設立総会の様子

「世界が全体幸福にならないうちは、個人の
幸福はあり得ない。」と教えた宮沢賢治。「理想
郷いーはとーぶ」、「銀河鉄道の夜」など世界各
国で平和主義的側面から注目されています。

そして新渡戸稲造。「願わくはわれ太平洋の
橋とならん」と志した国際人であり、日本人の
思想に関する論文「武士道」はその代表作であ
り、国際連盟設立に際して初代事務次長として
就任し、世界平和に大貢献しました。

このように岩手は、歴史を刻み、先人の想い
の込められた自然豊かな大地であります。

日本で初めて「国際科学研究所」が形成さ
れることは、岩手が「内なるグローバル化」を
押し進め、世界から訪れたいくなるような魅力あ
るまちづくりに挑戦することとなるのです。

大きな弾みとなったCERN視察！

2013年4月10日～15日に、国際的な研
究拠点であるスイス・ジュネーブのCERN（セ
レン・欧州合同原子核研究所）を訪問し、研究
者とその家族の生活環境を視察・調査するとと
もに日本の有力な建設候補地である北上サイ
トの優位性、岩手県民の熱意をアピールいたしま

した。団長は当時の元持会長。上野副知事、盛岡・奥州・一関市長など総勢35名が参加しました。機内泊2日で現地3日間は、CERN要人や日本人研究者とのディスカッション、アトラス測定器、グローブ（見学施設）、幼稚園、消防署、メディカルセンター等の施設見学、フェルネボルテール市長訪問や朝市の見学、日本人研究者との夕食懇談とまさに弾丸日程かつ盛り沢山のメニューでありました。

この視察では、ILC推進組織責任者であるリン・エバンス氏から、「質の高い研究ができることが重要であり、それを受け入れられる環境が整っていること。」との誘致に対する象徴的なコメントがあり、日本で一緒に仕事をしたいという期待も述べられました。そのほかCERN運営に携わるスタブネス氏、ビュルト女史からは、研究活動や生活全般にわたり懇切・丁寧な説明を受け、今後の受入れ体制について多くの示唆を得ました。

しかし、所期の目的以上の大きな成果もありました。その第一は、このミッションでは、官民の役割分担がしっかりとできて、効果的な連携ができたことであります。また、第二に、岩



CERN 視察団の現地でのアトラス測定器視察の様子

手日報、IBC、テレビ岩手が同行取材で参加し、特集・特番などで報道されました。このように、参加者全てが一致団結・一丸となり、誘致活動に大きな弾みがついた視察であったと思っております。

2つの国家プロジェクトを動力に！

東日本大震災津波以降、発災から7か月後の平成23年10月、被災地中小企業の再生支援のために「岩手県産業復興相談センター」が相談を開始し、盛岡商工会議所は運営をサポートしながら被災商工業者の支援に取り組んできました。現在の債権買取件数は91件で債権買取総額は、約136億円となっています。この実績は、中小企業庁、復興庁から大変な評価をいただいております。現在被災地では、直面する課題が土地の収用の問題や建設資材の高騰、人材不足などへと変化してきており、息の長い支援が必要となっていることから、盛岡商工会議所としては、被災地の復興施策の継続と拡充、風評被害対策についての要望などを引き続き積極的に行ってまいります。昨年は政府要人も幾度となく面談する機会がありましたので、その度に復興支援と、復興のシンボルとしてのILC誘致を強く訴えさせていただきました。復興支援の要望活動は、関係大臣、中央省庁、地元選出国會議員とかなりの訪問件数をこなしてきました。今では、復興支援としてILCについても、地元国會議員の皆様にも強力な後押しをしてい

ただいているところです。

また、機会あるごとに増田日本創生会議座長（前岩手県知事）にご指導を仰いでおります。

この2月にも東北経済連合会岩手地域懇談会の講師としてお願いしておりますが、ILCの現在の状況などの中央の情報を伺いつつ、推進協議会としての活動のあり方についてその都度ご意見をいただいております。

以下、平成25年度の推進協議会の主な活動状況について報告いたします。

普及・啓発活動

① 講演会の開催

- ・岩手県民・会員を対象とした講演会
- ・会員を対象とした講演会
- ・学生を対象とした講演会
- ② 普及・啓発用パンフレット等の作成・配布

・東北ILC推進協議会・岩手県ILC推進協議会のリーフレット作成・配布（1万枚）

・小・中学校へのDVD『めざせ！東北ビッグバン』—ILC国際リニアコライダー

実現に向けて」の寄贈（540枚）

③ 岩手県と連携した普及・啓発活動

- ・盛岡駅前歓迎塔設置、横断幕、のぼり、卓上のぼり、ポスター、リーフレットの作成・配布
- ④ ホームページを活用した情報発信

・日本語版DVD（東北ILC推進協議会共同制作）による情報発信、英語版リーフレット、DVD（東北ILC推進協議会共同制作）による世界への情報発信

⑤ 誘致推進横断幕の作成

⑥ 新聞、テレビ、ラジオによるILC特集への広告協賛

調査・研究活動

① 先進地視察による受入体制整備に向けた調査・研究

・平成25年4月10日（水）～15日（月）スイス・ジュネーブCERNほか

② インターナショナルスクール視察による受入体制の整備に向けた調査・研究

・平成25年4月18日（木）
千葉県幕張インターナショナルスクール小

学校・幼稚園

③ 研究者による立地評価会議への対応

④ 国内候補地一本化への対応

⑤ 地元3大学 学長との懇談会

要望・提言等

① 近隣県知事・商工会議所会頭等への表敬訪問

・三村青森県知事、林会頭ほか（6月17日）
・佐竹秋田県知事、藤澤副会頭（7月18日）

② 政府要人来県に伴う要望

・高橋北海道知事、高向会頭（7月10日）
・伊藤達也自民党中小企業小規模事業者政策調査会長（7月8日）

・下村博文文部科学大臣（7月10日）
・甘利明経済再生担当大臣（7月16日）

③ 中央要望

・茂木敏充経済産業大臣（7月19日）
・河村建夫リニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟会長（10月4日）
・文部科学省（丹羽政務官）、内閣府（山本大臣）、復興庁（長嶋政務官）、自民党超党派議員連盟（河村会長）（5月31日）

・復興庁、経済産業省、国土交通省等関係省

庁、地元選出国會議員（7月18日）

・北川中小企業庁長官、大島自民党復興加速本部長、井上公明党幹事長、長嶋復興庁政務官（7月24日）

・復興大臣（谷副大臣）、北川中小企業庁長官、地元選出国會議員（9月18日）

・復興大臣（谷副大臣）、北川中小企業庁長官、地元選出国會議員（12月4日）

④ LCC（※）メンバー北上サイト視察に伴うレセプション（10月17日、於 プラザイン水沢 参加者71名）

LCCメンバー（リン・エバンス氏、村山齊氏、マイク・ハリソン氏、ステイナー・ステイプネス氏、山本均氏、ブライン・フォスター氏、駒宮幸男氏、山下了氏）、達増知事・岩手県政策地域部関係者、一関・奥州・気仙沼の各市長、仙台・盛岡・大船渡・釜石・北上・花巻・平泉の各市町村関係者、高橋東北ILC推進協議会会長、KEK（高エネルギー加速器研究機構）・東京大学・東北大学・岩手大学・岩手県立大学の各研究機関関係者、岩手県ILC推進協議会役員



北上サイト視察後の状況説明を行うリン・エバンス氏（中央、右はマイク・ハリソン氏、左は村山齊氏）

※LCC：リニアコライダー・コラボレーション

国際素粒子物理プロジェクトである直線型衝突加速器「国際リニアコライダー（ILC）」と「コンパクト・リニアコライダー（CLIC）」が、「リニアコライダー・コラボレーション（LCC）」に統合。LCCディレクターは、リン・エバンス

氏、副ディレクターは東京大学の村山齊氏。3つの下部セクションが設置され、「ILCセクション」は、米ブルックヘブン国立研究所のマイク・ハリソン氏が、「CLICセクション」はステイナー・スタプネス氏が、「物理・測定器セクション」は東北大学の山本均氏が指揮を執る。また、LCCを監督する新組織「リニアコライダー国際推進委員会（LCB: Linear Collider Board）」の委員長は、東京大学の駒宮幸男氏。

新しいステージに取り組む「ILC実現検討会議」

昨年12月、盛岡商工会議所では所内に「ILC実現検討会議」を設置いたしました。ILCについては、岩手県、関係自治体、東北ILC推進協議会、そして岩手県ILC推進協議会がそれぞれ果たす役割を棲み分けすることが必要であります。県都、盛岡市としてILC建設についてどのような役割を果たすべきか検討を加える必要があることと、ILC建設実現に向けた課題は多く、民間の発想やスピード感が必要であることから設置を決めたものです。

盛岡商工会議所には、8つの委員会が組織さ

れていますが、この実現検討会議はそれぞれの委員会でILC建設実現に向けた課題を整理していこうとするものです。たとえば、まちづくりの観点では、日本創生会議において

①外国人が暮らしたいと思う魅力的なアーバン

デザインの実現

②家族が安心して暮らせる生活基盤整備

③ライフスタイルの違いを踏まえたアクティビ

ティーの充実

を提唱しています。国家戦略特区構想や民間活力を利用したまちづくり手法の検討をまちづくり委員会や中小企業振興委員会などで検討をしていくものです。

ILC建設実現に向けた課題は、枚挙にいとまがありません。このような課題をそれぞれの委員会で調査・研究していただき、正副会頭、専務理事を加えた14人の委員で構成する実現検討会議で協議していこうとするものです。行政や大学、研究機関なども連携しながら、積極的に取り組んで参る所存でおります。

強力な活動には皆様のご支援を

ILCは、東北全域にわたる産業振興、雇用

創出、人材育成、地域振興などに大きく寄与するものであり、定住・交流人口の増加による効果とともに、国際観光の振興などと相まって、東北の復興と国際化が一段と促進されることにつながります。

候補地一本化の発表当日は、岡村日本商工会議所会頭、長谷川経済同友会代表幹事からもコメントが発表されました。これまでも関係大臣等に要望を行ってききましたが、日本商工会議所や他の経済団体、東北大学やKEKなどの研究機関と連携しながら、早期に政府決定を促すべく要望を継続して参りたいと存じます。

昨年10月17日のLCCメンバーによる北上サイト視察後の記者会見において、リン・エバンス氏は、「ILC計画は北上サイト以外に設け計はしない」とまでおっしゃっていただきました。ILC建設実現に向けて笑顔で固い握手をしたことを思い出します。

世界からILC計画実現に向けた日本のリーダーシップに期待が集まる今こそ、東北のみならず日本再生の役割を担う国家プロジェクトであるILC建設実現に向けて、あらゆる努力をして参らなければなりません。

また、まちづくりなどのハード面の整備もさることながら、そこでコミュニケーションを取ることが出来る人材の育成も必要でありますので、ILC誘致が最終目的ではなく、そこから岩手・東北をどう変えていくかが非常に重要であると考えております。

世界の頭脳が結集し、岩手の人々と交流し、美しい自然、豊かな文化、美味しい食材、ホスピタリティあふれた東北の人々の笑顔が世界に発信されます。

『子どもたちの夢やあこがれが

未来を作ります。』

グローバル時代を先取りする世界に開かれた東北の創造につながるよう、最大限の努力をして参る所存ですので、今後ともご支援とご協力をお願い申し上げます。